「科学と仏教思想」研究センター活動報告

センター長　宮井　里佳

「科学と仏教思想」研究センターは、本学建学の理念である仏教精神を反映する機関として平成 20(2008)年に設置され、十余年にわたって、現代社会に生起する科学と宗教をめぐる諸問題について多角的な視点から研究を進めてきた。

近年の活動の中心は、従前通りの定期的な研究会（年に 4 回）と 2016 年度より年に 1 回開催している公開セミナーである。しかしながら、本（2021）年度は、昨（2020）年度にひきつづいて新型コロナ禍により公開セミナーを休止し、5 回の研究会を開催した。また、昨年度より、オンライン（Zoom）による実施としている。それにより、遠方ゆえこれまで参加し難かった方や初めての方の参加が可能となり、研究講演テーマを広げることができ、各回のテーマに関わる最先端の専門家らにも参加していただくことができた。そこで今（2021）年度は、仏教以外の景教（シリア・キリスト教）やユダヤ教等の宗教思想を新たに取り上げた。各回の研究会では、これまで以上により深く、かつ学際的な議論を行うことができた。オンラインでの議論は、チャット機能を利用して質問やコメント等を寄せていただくこともでき、従前以上に活発化しているかもしれない。一方で、ごく少数の中核メンバー以外は、テーマ毎に参加者がまったく異なり、研究会そのものの継続、連続性という点では不安定な面がある。

1.「科学と仏教思想」研究会

(1) 2021 年度第 1 回研究会　2021 年 5 月 28 日（金）14:00～16:30（オンライン）

「『大日経』を読む――空海の思想の根本となった理論を読み解く」

報告者：金井弘應先生（本学先端科学研究所研究支援員　真言宗僧侶）

金井弘應氏には、2017 年度に先端科学研究所研究支援員に着任以来、「科学と仏教思想」研究会の中核メンバーとして発題、議論の牽引に尽力していただいている。今回は、真言宗の根本経典である『大日経』を取り上げ、金井氏のかねてよりの主張である空海の思想、仏教の根本をお話いただき、仏教の思想について議論を行った。

(2) 2021 年度第 2 回　2021 年 7 月 30 日（金）14:00～17:00（オンライン）

「法の自性とは何か：『中観五蘊論』の読解を通じて考える」

報告者：横山剛先生（岐阜大学高等研究院特任助教）

横山剛氏には、2020 年度第 2 回「アビダルマとは何か」、同第 3 回「「煩悩を断つ」とはいかなることかー『倶舎論』が説く法の理論から考えるー」と題して連続してアビダルマ仏教について解説いただいた。そこで有部と大乗仏教との連続性あるいは相違が議論の的となったため、今回は、大乗中観派のチャンドラキールティが法体系を解説をした『中観

五蘊論』（横山氏による全訳　2021 年 2 月刊行）を取り上げ、有部と中観派における「自性」理解を中心に、両者の法理論の差異について解説いただいた。端的に言えば、有部は法に「自性」があるから他の法と関係していると考え、中観派は他の法との関係性があるからこそ法に「自性」を認めないという相違をご説明いただいた。参加者からはおおむね賛同的理解を得られ、比較思想的なテーマも含めて各々にとっての今後の課題（例えば有部の三世実有的時間の理解と中観派）等が出された。

(3)2021 年度第 3 回研究会　2021 年 9 月 17 日（金）14:00～16:30（オンライン）

「景教　－前近代アジア・キリスト教思想の特徴」

報告者：武藤慎一先生（大東文化大学文学部教授）

武藤慎一氏に、「景教」（東シリア・キリスト教）について基本的な事項から説明いただき、「適応思想」を中心に前近代アジア・キリスト教思想の特徴についてお話いただいた。シリア・キリスト教やシルクロード史等を専門とする先生方にもご参加いただき、シリア・キリスト教と仏教との類似性などについて議論がなされた。

(4)2021 年度第 4 回研究会　2021 年 11 月 26 日（金）15:30～18:00（オンライン）

「デュルケームの著作に見られるユダヤ教思想」

報告者：平田文子先生（本学人間社会学部情報社会学科講師）

平田文子氏には、近刊『デュルケーム世俗道徳論の中のユダヤ教：ユダヤの伝統とライシテの狭間で』（2021 年度日本学術振興会研究成果助成金（学術出版）による刊行）の核になる部分、すなわち、エミール・デュルケームの世俗道徳論には、彼のユダヤ教信仰に基づく思想が見られるという、従前の解釈になかった新知見をお話いただいた。日本ユダヤ学会の先生方にもご参加いただき、デュルケームの思想、社会心理学とユダヤ教をはじめとする宗教思想との関連性やユダヤ教の性格など、さまざまな分野からのコメント、質疑応答がなされた。

(5)2021 年度第 5 回研究会　2022 年 2 月 25 日（金）16:00～18:00（オンライン）［予定］

「中世ユダヤのアリストテレス受容」

報告者：根本豪先生（ユダヤ教研究、イスラエル大使館勤務）

年度最終回は読書会を恒例としているが、前回にひきつづきユダヤ教思想を取り上げることとした。根本氏による発表内容紹介は次のとおりである。:「中世のイスラム統治下のイベリア半島では、アリストテレスを始めとしたギリシャ哲学が流入しユダヤ・イスラム・キリスト教の知識人たちがその学知をそれぞれに解釈・吸収した。今回の発表ではイスラム教徒によるギリシャ哲学の再発見からユダヤ人哲学者への影響について大きく触れたあとに、その一つの例として私の修士論文のテーマでもあったモシェ・ナルボンニという１４世紀のラビ・哲学者の論理学註解のテクストを一例として扱いたい。」